プログラム・ノート

山田治生

Ⅰ　6月15日（木）19:00開演

ドホナーニ：セレナード ハ長調 作品10

エルネー（エルンスト・フォン）・ドホナーニ（1877～1960）は、ハンガリーの作曲家。ピアニストや指揮者としても活躍した。高名な指揮者、クリストフ・フォン・ドホナーニ（1929～ ）の祖父にあたる。弦楽三重奏のためのセレナードは1902年に作曲された。付点のリズムが特徴的な**第1楽章**「行進曲」、ヴィオラがたっぷりと歌う**第2楽章**「ロマンツァ」、皮肉のきいた**第3楽章**「スケルツォ」、ゆったりとした主題が変奏されていく**第4楽章**「主題と変奏」、終盤で第1楽章の音楽が再び現れる快活な**第5楽章**「ロンド（フィナーレ）」の5つの楽章からなる。

シェーンベルク：『浄められた夜』作品4

アルノルト・シェーンベルク（1874～1951）は、20世紀前半にウィーンで活躍した新ウィーン楽派のリーダー的存在。十二音技法の創始者や無調音楽の作曲家として知られるが、初期はロマンティックな音楽を書いていた。

『浄められた夜』は、シェーンベルクがまだロマンティックな作風を示していた1899年に作曲された弦楽六重奏曲。リヒャルト・デーメルの同名の詩に基づく標題音楽である。詩の大筋は、一組の男女が夜の森を歩き、女が男の知らない男性の子供を身ごもっていることを告白するが、男はその子を自分たちの子としようと応える、というもの。全体は、「月夜の森（歩みの動機）」～「女の告白」～「月夜の森（激しい歩みの動機）」～「男の語り」～「月夜の森（清らかな歩みの動機）」の5つの部分に分けることができるだろう。全曲は切れ目なく演奏される。

ドヴォルジャーク：ピアノ五重奏曲第2番 イ長調 作品81

アントニーン・ドヴォルジャーク（1841～1904）のピアノ五重奏曲には、1872年の第1番と87年の第2番があるが、一般的に「ドヴォルジャークのピアノ五重奏曲」と呼ばれているのは、本日演奏される第2番の方である。この曲は、彼の交響曲第7番と第8番の間の時期に書かれた円熟期の作品。ドヴォルジャーク特有の旋律の美しさとボヘミアの民族的な魅力に満ちている。チェロが朗々と第1主題を奏でる**第1楽章**、「ドゥムカ」（スラヴ民謡の一種）と名付けられ、悲哀を帯びた**第2楽章**、快活で、中間部が夢見るように美しい**第3楽章**、民俗舞踊のステップを思わせる軽快な**第4楽章**の4つの楽章からなる。

Ⅱ　6月17日(土) 19:00開演

モーツァルト：ピアノ四重奏曲第2番 変ホ長調 K. 493

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756～91)は、それまでのピアノ三重奏曲にヴィオラを加えた形でのピアノ四重奏曲を2つ書いた。モーツァルト自身が室内楽でヴィオラを弾いていたことも関係しているに違いない。オペラ『フィガロの結婚』の初演(1786年5月)を挟んで、第1番は1785年に、第2番は1786年に作曲された。ヴィオラが加わっているゆえにピアノ三重奏曲よりも充実した弦楽アンサンブルが可能になり、モーツァルトのピアノ四重奏曲では、ピアノ＋弦楽三重奏という、ピアノ協奏曲的な書法が際立っている。

第2番は、4つの楽器がそれぞれの個性を生かしながら和やかに始まる**第1楽章**、穏やかで繊細な**第2楽章**、ピアノがチャーミングなロンド主題を提示する**第3楽章**からなる。

メンデルスゾーン：弦楽五重奏曲第2番 変ロ長調 作品87

フェリックス・メンデルスゾーン(1809～47)は、ヴィオラを2挺用いた弦楽五重奏曲を2つ残している。第2番は、第1番から約19年を経て、1845年に作曲された。しかし、彼は、その2年後に急逝する。

弦楽五重奏曲第2番は、若き日の弦楽八重奏曲と同様に、第1ヴァイオリンの活躍が際立ち、第1ヴァイオリンが他の4つの楽器と対峙する箇所(1対4で旋律と伴奏に分かれたり、逆に単独で伴奏にまわったり)がしばしば見られる。

第1楽章は、4つの楽器のトレモロにのって、第1ヴァイオリンが第1主題を提示する。**第2楽章**はメンデルスゾーンらしいゆったりとした軽やかなスケルツァンド。**第3楽章**は哀愁を帯びたアダージョ。最後にニ短調からニ長調へ転じる。そして、快活かつ快速な**第4楽章**で締め括られる。

ブラームス：弦楽六重奏曲第2番 ト長調 作品36

ヨハネス・ブラームス(1833～97)は弦楽器のみによる室内楽として、3つの弦楽四重奏曲と2つの弦楽五重奏曲と2つの弦楽六重奏曲を残しているが、最初に完成させたのが2つの六重奏曲であった。

弦楽六重奏曲第2番は、第1番から約5年後の1865年に書き上げられた。**第1楽章**で、ブラームスは、恋仲にありながら結ばれることのなかったアガーテ・フォン・ジーボルトの名前をラソラシミの音型AGA(T)HE(アガーテ)に読み込んだ。**第2楽章**は哀愁を帯びた2拍子のスケルツォ。トリオは情熱的な3拍子。**第3楽章**は、主題と変奏からなるアダージョ。**第4楽章**は弾むような8分の9拍子の音楽。

(やまだ はるお・音楽評論)